

令和 7 年度岡崎市農林産物等展示即売施設事業報告書

公の施設名称	岡崎市農林産物等展示即売施設（おかざき農遊館、ふれあいドーム岡崎）
施設の設置目的、役割	農林産物等の展示及び即売を行うことにより、農業及び林業の振興を図るとともに、消費者に良質な農林産物等を提供する。
施設の所在地	おかざき農遊館：岡崎市東阿知和町字乗越 12 番地 ふれあいドーム岡崎：岡崎市下青野町字天神 77 番地
施設規模	敷地面積：農遊館 15,989 m ² 、ふれあいドーム 6,990 m ² 建物面積：農遊館 延べ 2,034.27 m ² 、ふれあいドーム 延べ 1,572 m ²
指定管理者	名 称：あいち三河農業協同組合 所在地：岡崎市坂左右町字葦ノ部 1 8 番地 1 代表者：代表理事組合長 大竹 博久
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

ア 農林産物等展示即売事業（営業日数）

おかざき農遊館 361 日

ふれあいドーム岡崎 361 日

イ イベントの開催（開催数）

おかざき農遊館 51（提案事業 6、自主事業 45）

ふれあいドーム岡崎 36（提案事業 1、自主事業 35）

※ 開催したイベントの一覧（提案事業・自主事業）については、別紙参照

(2) 事業実施に対する自己評価

地域で生産された安心・安全かつ新鮮な農林産物を展示即売する施設として、生産者と食育ソムリエが協力し、消費者への農林産物の提供と情報発信に努めることができた。JA あいち三河公式 LINE、Instagram を積極的に活用し、SNS による産直 PR に力を入れたが、アンケート結果より、店内 POP や広報誌も多く見て頂けていることから、SNS だけでなく、色んな媒体で消費者へ情報発信を実施できた。

生産者に対する農業支援として、毎週の早朝相談、栽培研究会、農薬講習会を充実させて実施できた。

店舗による周年祭や各種イベントも再開し活気ある事業を展開できた。また各団体の品評会や即売会、姉妹都市とのイベントなどをほぼ計画通り実施することができた。また消費者に対する栽培講習会、じゃがいも、いちご研修農場での収穫体験を実施し、消費者の農業に接する機会を提案できた。さつまいもの収穫体験は、猛暑の影響から思ったように成育が出来なかったため、中止となりました。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

ア	おかざき農遊館	
	利用者数	550,573 人
	買上者数	294,440 人
	売上額	664,552,227 円
イ	ふれあいドーム岡崎	
	利用者数	630,712 人
	買上者数	337,941 人
	売上額	727,864,065 円

(2) 利用状況に対する自己評価

令和6年産のお米が不足する中、農家や関係団体に協力を仰ぎ、お米の確保に努め、来店する利用者に対し数量制限はしたものの供給が止まることなく運営が出来ました。また、物価高騰の中、生産者の協力を得て安心・安全で鮮度の良い農林産物をお値打ちに提供できました。食育ソムリエによる地元の旬な農産物のレシピ提案、料理教室、試食を実施できた。スーパーには並ばない品種の農産物も出荷して頂き盛り上げられました。

食べる試食、視る試食（料理展示）を継続的に実施し、地元農産物のPR、料理提案を積極的に実施しました。農遊館においては、物価高騰の中、朝市を積極的に行い、店内だけでなく、店頭でもお楽しみいただきました。

おかざき農遊館においては、野菜（じゃがいも）の収穫体験、ジャンボかぼちゃの展示即売、めだかの飼育講習会、野菜栽培講習会を実施した。また季節行事に合わせた切花特設コーナーの設置や展示会を実施し農業への理解と施設の役割をPRしました。また姉妹都市との連携による石垣フェア（踊りやパイナップル、マンゴーの即売会）を開催し、多くの市民に楽しんでいただきました。

ふれあいドーム岡崎においては、店内POPを積極的に活用しイベントの案内を実施した。また隣接する研修農場を借りたイチゴ収穫体験、野菜栽培講習会を実施し、農業に触れる機会、農業への理解を頂けるようにしました。また農家同士の交流会の開催、圃場見学会を実施し農家同士の情報交換やふれあいが増えました。

利用者や出荷者の不便にならないよう施設の老朽化に伴う修繕を速やかに行いました。

対外的な要因も多く、利用頻度は減少傾向ではあるが、新規利用者、固定利用者の確保のため、農家と協力し地産地消を推進する施設として役割を果たすことが出来た。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額（円）
収 入	事業収入	産直店舗供給高	819,165,594
	指定管理料収入	指定管理委託料	5,486,035
	便益施設に関する収入	自動販売機、売店、軽食等に関する収入	8,571,541
	その他収入	利用料、手数料等に関する収入	203,566,429
収入 計			1,036,789,599
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、消耗印刷費 清掃等委託料、保険料等	181,432,099
	指定管理修繕費	指定管理委託料による修繕費	5,486,035
	指定管理精算金	市への精算金	0
	事業費	事業に係る経費	789,646,412
	その他	本部経費、租税公課、雑費等	16,732,838
支出 計			993,297,384
差 引			43,492,215
地域振興協力金			161,104

(2) 収支状況に対する自己評価

物価の高騰による買い控え、米不足、米余りなど、依然として厳しく読めない経済環境の中にあるが、農産物の出荷も概ね順調であったため、収支は良かった。しかしながら、一部の農産物では猛暑障害のため、収量が確保できない作物もあり今後に不安がある。

両店舗共通して、イベント費用の増加、最低賃金の増加による人件費の増加、水道光熱費の増加による費用の増加、出店業者の出店拒否による収入の減少があった。

おかざき農遊館は、店舗間配送便の利用者を増加させ、委託販売農家による出荷物の増加により、仕入れ品を減少させることができ廃棄ロスを減らした。

農産物の価格が高騰すると、産直品を求める利用者が増え、苗物の利用者も増加するが、価格が下がるとスーパーへの利用者が増えて産直利用者が減少するため、費用を削減しながら、店内の商品を充実させ、生産者への栽培提案による新しい企画を実施し、新規利用者や固定利用者を確保し、収支を増加させたい。

4 アンケート結果

(1) 利用者（お客様）アンケート

ア 実施概要

施設	実施期間	回答者数	アンケート実施方法
おかざき 農遊館	令和8年2月14日（土） ～2月28日（土） 計15日間	100人	店頭にてアンケート用紙を 配布して実施（無記名） 平日 50人 休日 50人
ふれあい ドーム岡崎	令和8年2月14日（土） ～2月28日（土） 計15日間	100人	店頭にてアンケート用紙を 配布して実施（無記名） 平日 50人 休日 50人

イ アンケート結果概要

(1) 住所、性別、年齢、同居家族、(2) 同伴者、(3) 来店頻度、(4) よく利用（購入）される商品やサービス、(5) 良くなって欲しい商品やサービス、(6) 農産物を購入する際の着眼点、(7) 地産地消の意識、(8) 有機農産物を購入、(9) 店舗情報の取得方法、(10) 食育ソムリエの参考にしていること、(11) 従業員の対応、(12) ご意見箱の設置、(13) 店舗の満足度、(14) 施設に期待すること、その他意見を回答いただいた。

市内在住の来店者割合は、両店舗とも 90%を超えた。

男女比率は、1 : 2。

来店者が 50 代以上の割合が高い。

来店回数は、週 1 回が最も多く、2 回以上、月 1 回の順である。

野菜、切花、米、苗物の利用者が多い。

品揃え、レシピの提案、安くなって欲しいという要望が多い。

地産地消（鮮度）を意識している方も多い。

情報取得で店内 POP の利用が 1 番多くなった。

食育ソムリエには、レシピ提案を 1 番期待されている。

店舗満足度も非常に高かった。

その他で、お店が狭い、トイレ、施設の老朽化が心配、午後の品揃え、スーパーにないイベントの充実、新鮮で安価な安全安心野菜を多く揃えて欲しいなどの意見があった。

ウ アンケート結果に対する自己評価

アンケートでは、両施設を管理運営するにあたり、施設（ハード）及び管理運営（ソフト）の改善等に役立つ多くの意見をいただいた。

今後の農林産物等展示即売施設として、利用者の満足向上の為に、生産者と共に新鮮な農産物の品揃え強化に努める必要がある。

品揃え強化のため、①生産者の栽培出荷指導を実施する、②売場で農林産物が不足した際の生産者への効率的な連絡による農林産物の補充を行う、③新たに導入した県域システムを効果的に活用し、計画的な地元農林産物の販売体制を整える、④30年度より取り組んでいる店舗間物流の拡大による品揃え強化、⑤産直農林産物が揃わない場合は市場仕入を活用し品揃え改善を図っていく。

情報の取得は、店内POP、市政だよりが多く、紙媒体が多くなった。若い人向けにSNSを充実させたいと感じた。また食育ソムリエ活動について、レシピ、試食、食育情報を参考にしていることが分かり、食育ソムリエ活動に役立てたい。

従業員に対する評価が高く、従業員の励みになった。店舗に対する満足度は、良いが90%を超えており事業運営に評価を頂けたと感じている。

(2) 生産者アンケート

ア 実施概要

施設	実施期間	回答者数	アンケート実施方法
おかざき 農遊館	令和8年2月14日（土） ～2月28日（土） 計15日間	51人	店頭にてアンケート用紙を 配布して実施（無記名）
ふれあい ドーム岡崎	令和8年2月14日（土） ～2月28日（土） 計15日間	42人	店頭にてアンケート用紙を 配布して実施（無記名）

イ アンケート結果概要

住所、性別、年齢、作付面積、耕作・出荷者人数、および（1）農産物の生産において必要だと思われる取組みについて、（2）出品者として欲しい情報について、（3）野菜栽培研究会について、（4）産直の情報の取得について、（5）余剰野菜の有無について、（6）余剰野菜の処分について、（7）困っていることについて、（8）施設の修繕・改善の要望事項、今後取り組んで欲しい催事・研修会・視察等について回答を頂いた。

回答者は市内の生産者の回答が90%を超え、男女差はほとんどなく、70代80

代の回答が 50%を超える。

消費者に選ばれる品目品種の導入、適正な価格で販売、減農薬、減化学肥料の取組みが重要と考えている。

欲しい情報は、参考売価、栽培技術、自分の農産物への評価、消費者の動向である。

栽培研究会への参加は、40%の方が参加したことがある。

情報の取得は、会員 E メール、店内 POP が 90%である。

余剰野菜は、50%の方に有り、無償で他人へ配布、自家消費、畑でたい肥化がほとんどで、JA 以外で販売が 4 人だけであった。

困ってることは、資材の高騰が 70%を超え、労働者不足、鳥獣害被害、高温被害が続く。

その他で、施設の狭さ、お客様を呼び込める施策を期待されている。

ウ アンケート結果に対する自己評価

アンケートでは、両施設を管理運営するにあたり、施設（ハード）の改善を期待する意見をいただいた。

農家の欲しい情報を知れたので、より多くの情報発信に努めていきたい。

市場価格、スーパー価格の情報収集に努め、価格の情報発信に繋げ、消費者と出荷者の双方が納得いくようにして、お店の活性化につなげたい。

5 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

産直施設として、生産履歴確認、残留農薬検査を取り組んでおり、「安全・安心で新鮮な農林産物」を今後も利用者へ提供する。接客、接遇、商品説明等について、園芸に関する知識の習得が進んできているので、継続していきたい。

食育ソムリエによる講習会、試食会、レシピ提案などを多く開催し、農産物の販売拡大を引き続き実施していきたい。

また、アンケート結果にある店内が狭い、品揃え（量）の不満に対して、引き続き様々な取組みを通して改善を図りたい。

SNSによる情報発信が足りていないため、店内POPと併せて改善を図っていききたい。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用者アンケートや利用者等を交えた会議（准組合員モニター）、アンケートBOX、店内で利用者との会話、また食育ソムリエの試食や講習会においてニーズの把握に努めた。今後も各種情報の発信、ニーズの把握に努めていきたい。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

顧客満足度の向上が施設運営の基本と考えており、購入者に対する不良品の交換対応、返金処理等は確実に対応できている。利用者からの意見苦情は真摯に受けとめ、原因究明と再発防止策を策定し職員教育を徹底するとともに、その出荷物の出荷者に対し適切な指導をしています。また、定期的な接遇研修を開催し、顧客満足度の向上へと繋げています。